

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	特定非営利活動法人 復興応援かけこみキャラバン
支援対象者・エリア	岩手県釜石市および周辺の市民
企画開催地	岩手県釜石市
企画名称	東日本震災復興応援秋祭り（および「釜石復興音楽祭」）の開催
実施期間	2018 年 9 月 30 日(日)（活動期間は 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

2011 年東日本大震災の当時、何か復興に繋がることができないだろうかと集まった有志で、支援ライブや現地報告会・写真展開催などの活動を開始しました。被災地へ赴いて被災された方の話を聞き、現地では学校等が避難所になることで遊び場を失った子どもたちが多くいることや、音楽活動などを行っている方々は発表機会を失われがちである等の状況を知りました。そこで、「音楽や秋祭りの開催で心を癒す場を提供し、生活再建に向けた取り組みなどへの支援を通じて復興を支援する」目的で、2012 年 9 月に岩手県釜石市において 1 回目の「東日本震災復興応援秋祭り」（以下、「秋祭り」）を開催し、その後、年 1 回の開催を続けてきました。当会には音楽や芸術などの専門性を持つメンバーが多く、それぞれが経験を生かすことで震災の翌年には「秋祭り」を開催する事ができました。

「秋祭り」のメインとなるキッズダンスは“避難所の子供達に元気を”と地元有志が立ち上げたもので、その最初の発表の場が第 1 回「秋祭り」になりました。2014 年には釜石からの要望により 2 日目「釜石復興音楽祭」が誕生。継続的な支援活動を行うため、2015 年 4 月 NP0 法人を設立しました。釜石に通い続けることで、現地で縁をえた方々からお話を伺う機会も増えました。釜石では市内 63 箇所あった仮設住宅の縮小統合と、入居されている方々の復興住宅への移住が進んでいますが、被災の過程でも地域コミュニティの分断が起これ、今また仮設住宅で構築されてきたコミュニティの再分断を危惧する声を一度ならず聞きました。釜石現地からは、そのような被災後に構築されたコミュニティの維持・再会の場としての期待も込め、「秋祭り」の継続に対する強い要望を受けています。

2018 年 9 月、岩手県釜石市民ホール TETTO において「東日本震災復興応援秋祭り Vol. 7」・「釜石復興 音楽祭」を開催しました。東京から会員・スタッフ 24 名が赴き、釜石や近隣の協力者と一緒に活動しました。タイミング悪く台風が北上しているという悪天候にもかかわらず、約 1,000 名の方にご来場いただきました。各プログラムは次の通りです。

- 「秋祭り」（会場：釜石市民ホール TETTO ホール前広場 B）餅つき・餅まき、肩もみ肩たたき、キッズコーナー（「ビー玉万華鏡」作り、ピエロと遊ぼう、等）、地元カラオケ大会、地元キッズダンス、新舞踊（遠野）、遠野一輪車クラブ、お菓子詰め放題、「絆・釜石」ショップ、「笑顔カード」制作。「秋祭り」恒例となった地元カラオケサークル「はまゆり歌謡クラブ」全面協力のカラオケ大会、避難所で誕生した「いがったんたら」のキッズダンス、遠野「乙之丞一座」の新舞踊、そして遠野一輪車クラブの素晴らしいパフォーマンスで、会場を盛り上げていただきました。隣接するホール前広場 C では地元の飲食出店が実現しました。
- 「音楽祭」（会場：釜石市民ホール TETTO ホール B）「音楽祭」は音楽演奏による交流の場です。隣の大槌町から新しいバンドが参加するなど、今年も新しい内容がありました。演奏も多岐にわたり、子どもから年配

の方まで広く楽しんでいただくことができました。出演グループは、年々地元釜石や東北が中心となり、釜石近隣で音楽活動をしている方々との繋がりも更新され続けています。

7年この活動を続けて行きた中で、釜石や近隣地域の「秋祭り」協力者は増え続けています。企画ブースについても大半を釜石および周辺の方々の主導やご協力で実施できるようになってきました。特に2018年は、これまでも「秋祭り」の企画ブースで協力してくださってきた「絆・釜石」さんが、必要な手続きや出店者の取りまとめをすべて行ってくださって、地元からの出店を初めて実現することができました。今回の出店は飲食だけでしたが、飲食以外の出店も模索しているとのことです。今後は、イベント出店を通じて釜石市内の様々な地域がつながること、そして生業活性化の一助となること期待しています。「秋祭り」・「音楽祭」の会場は、地元の参加者同士だけでなく、毎年来てくださる方と東京スタッフとが再会する場にもなっています。

これまで会場として無料で利用できた「シープラザ遊」閉鎖に伴い、2018年からは釜石市中心部に新設された市民ホール「TETTO」に会場を移しました。そのため、会場使用料や光熱費などの経費が増加しています。今後はこれらの資金確保が大きな課題です。

2018年度は、開催準備期間と終了後に計3回の現地打合せも行いました。毎回、釜石市役所および概ね15名前後の釜石・遠野の協力者と懇談しました。私たちは10年間の活動継続を目標として活動してきましたが、現地協力者からはそれ以後の「秋祭り」継続に向けた意見やアイデアが出てくるようになりました。2018年の「秋祭り」開催後に、新たに連絡を取ってきてくださった方もいます。ひきつづき、この繋がりを大切に育てていきたいと思います。

数年前から、被災者の方々から当時の様々なお話を伺う機会は、あきらかに増えています。現在、釜石では2019年ラグビーワールドカップの開催に向けて、ラグビー場や道路などのインフラ整備とともに仮設住宅の閉鎖と復興住宅への転居が進んでいますが、その一方で仮設商店街の閉鎖を機に廃業を決めたお店の方のお話など、考えさせられる話も多々伺います。2018年秋祭りの後に連絡をくださった新しい出演希望者と釜石でお会いした際にも、被災地の中でも津波被害を「受けた」か「受けていない」といった地域の違いからくる複雑な思いを伺う機会もありました。このような被災者の「思い」を私たちの活動の中でどのように活かしていくかも、今後の継続した課題です。私たちに出来ることはささやかかもしれませんが、釜石とのご縁をこれからも大切に活動していきたいと思います。

活動の様子（写真など）

7年目にして新しい会場での開催。手探りでしたが、沢山の方々に楽しいひと時を持って戴けたと思います。



〔上・左〕「秋祭り」会場（ホール前広場）の様子



〔上・右〕キッズコーナーの工作
（ビー玉万華鏡づくり）

〔下〕キッズコーナーで皿回しに
挑戦する子どもたち



〔上〕肩もみコーナー（地元整体院が協力）

〔左〕笑顔カード作成（三陸復興応援団）



〔上・右〕 昨年に引き続き、素晴らしい演技を見せてくれた遠野一輪車クラブ。全国大会でも世界大会でも好成績を残すレベルの演技を、惜しみなく披露してくれました（上の写真のグループ以外にソロ1名とペア1組、年少者の1グループが演技）。



〔右・下〕 第1回目から参加してくれている、地元キッズダンスチーム「いがったんたら」7年が経ち、メンバーも入れ替わっている。被災当時は小学生だった子も高校を卒業し、チーム設立のきっかけになった子は、2019年春に就職して釜石を離れたという。一方で、震災の後に生まれた子どもたちが新しいメンバーに加わっている。



[右]「音楽祭」会場の様子1 まったり〜ず
ルーアプカシ UPOPO (盛岡) の演奏
[下]「音楽祭」会場の様子2 幕間のDJ



[上]「音楽祭」会場の様子3 今年初出演の Jazzanaval
(大槌) の演奏
[左]「秋祭り」会場(左)と「音楽祭」会場(右) ガラス
窓越しにお互いの会場の様子が見える



「音楽祭」終了後、出演者や地元釜石・近隣の協力者の皆さんと一緒に記念撮影